

「一関遊水地見学会」を開催しました

○開催日時：平成26年8月24日（日）

○実施内容：遊水地展望台見学、大林水門（大林排水施設躯体工事）見学
遠隔バックホウ稼働実演、大型遠隔操縦式草刈機除草実演
排水ポンプ車稼働実演、「あいぽーと」施設見学

○参加者等：一関・平泉地域の住民の皆様 22名

北上川の中流部・岩手県南部に位置する一関・平泉地域は、その地理的特性から、古くから水害に悩まされてきており、数々の大洪水に見舞われ、多大な被害を受けてきました。しかしながら、昭和22、23年に来襲したカスリン・アイオン台風の水害を契機に計画された一関遊水地及びその周辺の治水対策の推進によって、度重なる洪水被害は徐々に軽減されてきました。

そこで、岩手河川国道事務所・一関市では、一関・平泉地域の住民の皆様を対象に、洪水対策として昭和47年度から進められてきた一関遊水地事業の進捗状況と、今後予想される異常気象がもたらす災害に対応した治水の意義を学び、治水対策事業への理解を深めて頂く事を目的として、『一関遊水地見学会』を開催（今年で5回目）しました。

当日は、現在工事が進められている「大林水門」の現場見学や、遠隔バックホウや大型遠隔操縦式草刈機の操作体験、「あいぽーと」施設にある集中管理センターの見学等をおして、一関遊水地事業について学習しました。

参加者からは、過去の水害における水位の違いや、大林水門のゲートの重さ、水門操作員について等の質問が出され、一関遊水地事業への関心の高さが伺えました。また「北上川全体の治水対策が分かりやすく説明してくれた」「普段見ることのない工事現場を見学出来た」「遠隔バックホウが楽しかった」「工事中に洪水が来ないことを祈る」などの感想を頂き、とても有意義な見学会となりました。

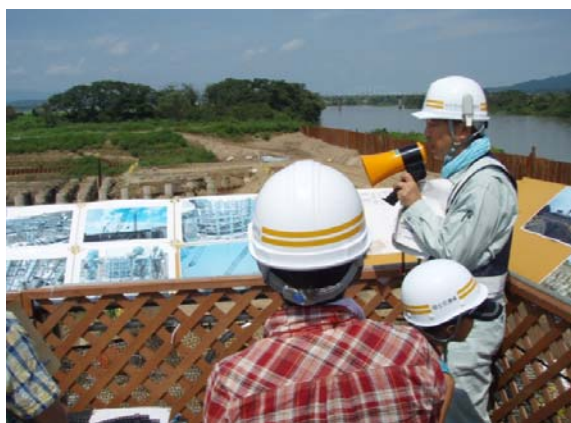
『一関遊水地見学会』は来年度も開催予定です。



「あいぽーと」で出発式



遊水地事業の概要説明



大林水門の工事概要説明



参加者全員で記念撮影



遠隔バックホウの稼働実演



大型遠隔操縦式草刈機を操作する参加者



排水ポンプ車の稼働実演



北上川流域マップに見入る参加者の皆様



集中管理センターの説明



展望室から遊水地の説明



ゲリラ豪雨を監視するXバンドMPLレーダー



「あいぽーと」で修了式